

新型コロナウイルス状況下での大規模葬儀対応事例

新型コロナウイルス感染拡大により、緊急事態宣言解除後も、葬儀の縮小・簡素化傾向は続いている。葬儀は人が多く集まり、3密（密閉、密集、密接）になりやすい。家族葬などの少人数葬を推奨する葬儀社も多いという。そのような逆風下で、宮城県仙台市の株式会社清月記では6月下旬に参列者800人を想定した大規模葬を無事に執り行った。コロナ禍での大規模葬儀では、どのような対策が施されたのか。葬儀を取り仕切った株式会社清月記の新貝氏に感染症対策や参列者の様子について語ってもらった。



感染症対策について何度も話し合う

—故人はどのような立場の方だったのでしょうか？

宮城県電気工事工業組合と仙台電気事事業協同組合の理事長を兼任され、長年業界の取りまとめ役として、地域経済にご尽力された方でした。大規模な葬儀になることが想定されましたので、このような時期でも葬儀ができるかと、弊社にご相談をいただきました。弊社もコロナ禍の中での初めての大きな葬儀でしたので、感染症対策について、先方と何度も話し合いを重ね、ご納得いただいた上で、執り行いました。

—参列者は何名くらいでしたか？

想定人数は800人でしたが、やはり参列をご遠慮さ

れる方も一定数いらっしゃいました。ご参列できない方からの弔電の数は200通以上届きました。

—当日のコロナ対策について具体的に教えてください

まずは会場にお越し頂いた方全員に、非接触のサーモグラフィーを使用し体温を確認してもらいました。そして会場に入ってから、スタッフが一人一人にお声がけをして、アルコール消毒をお願い致しました。

参列者の方もほとんどの方がマスク着用されていたりしましたが、されていない方には、弊社が準備していたマスクをつけていただきました。

受付も通常なら芳名帳を利用しますが、受付のペンからの感染を避けるために、受付カードと使い捨てのクリップペンをセットにしてお渡しして、カードを回収する形をとりました。

当日対応した弊社スタッフは20人弱でしたが、もちろん全員検温をすませて、マスク着用、手指の消毒を欠かしませんでした。

参列をご遠慮される方ができるかもしれないと懸念しておりましたが、ありがたいことにみなさん問題なくご参列いただきました。

会場の中に入らずご焼香だけを希望される方に向けて、会場表に遺影写真と受付カードを設置した焼香所を準備しておりましたが、利用者は少なかったです。

また、東北の葬儀では受付で香典返しをお渡しするのが通例ですが、今回は受付ではプロフィールと引換券をお渡しして、葬儀終了後に出口でお渡し、感染リスクを減らしました。



入口で手指消毒の呼びかけ

サーモグラフィーで参列者の体温チェック

ご焼香人数は半分・食事の内容も変更

—葬儀会場はどのような場所でしたか？

弊社の「仙台迎賓館 斎苑」別館2階にあるエターナルホールという最大収容人数1,000人の大型式場になります。仙台市の規模の大きな社葬や団体葬、お別れ会などで、非常に多くご利用いただいております。

エターナルホールは固定席で、普段であれば前からお客様をご案内するのですが、当日は人と人のソーシャルディスタンスが保てるように、一席ずつ空けて座っていただきました。

席と席の間が空いていることで、隣の人とお話することが減り、いつもの葬儀よりも、より静かな雰囲気でした。

—当日の式次第を教えてください。

まずは開会の言葉と葬儀委員長のご挨拶があり、その後全員で黙祷。次に追悼DVDの放映があり、弔辞、お別れの言葉の拝聴、弔電奉読と続き、ご家族や関係者の指名焼香がありました。

さらに故人の奥様からの謝辞、会社の後継者の方のご挨拶があってから、ご来賓の指名焼香、一般焼香という流れでした。仙台ではご焼香が終わったら、そのまま流れ解散になります。所用時間は一時間くらいでした。

—当日の式の中でも感染対策はどのようなことをされましたか？

まずご焼香ですが、通常であれば12～20人の方が一度にご焼香されるのですが、今回は間を開けて、6人ずつのご焼香に変更しました。

また葬儀の後のお食事は、普段であればビュッフェ方式にしているのを、それぞれのテーブルごとに料理をとりわけました。ローストビーフもいつもはお客様の目の前でカットしてご提供するのですが、今回は事前に切り分けたものを皿に盛って召し上がっていただきました。

ただ、やはり今回はコロナウイルスのことがあり、お食事を召し上がって帰られた方は少なかったです。

どんな状況下でも満足いただける葬儀を

—実際にたくさんの参列者をお迎えになっただけでしたか？

緊急事態宣言が解除された6月中旬のタイミング



ライブ中継で来られない方もネット参列

でご相談をいただきました。本当にこの状況下でできるのか手探りではありましたが、できる限りの感染対策を検討して、先方からも「これだけ対策を万全にしてくれるならやろう」というお声をいただくことができました。

事前に「参列しても大丈夫ですか」というお問い合わせのお電話も数件いただきました。そのたびに、具体的に弊社の感染対策をご説明して「このような対策をしているので、ぜひいらしてください」とお話しすると、みなさんほっとされているようでした。

仙台でもまたコロナの感染者が報告されているので油断はできませんが、きちんと感染予防の対策をすれば、大規模な葬儀もできるということを証明できたのではないのでしょうか。

故人の奥様からも感謝の言葉もいただきました。今の時期は葬儀を小さくすませると思われる方も多いのですが、ご遺族の方の思いを一番に考えること。コロナ禍でもその本質は変わらないことを再認識させていただきました。

—新型コロナの影響はまだしばらく続きそうです。アフターコロナの「新しい生活様式」に合わせて、葬儀はどのようにしていくべきだと思いますか？

コロナ禍により、最近では遠方の親戚などに気を遣って、家族だけでお別れする家族葬が増えています。しかし、葬儀はお世話になった方と最後のお別れの大事な儀式です。コロナで大変な時期だったから仕方ないとか、故人の意思を反映できなかったという悔いを残すのはとても悲しいことです。

私たちは、お客様の意向を反映させるように十分に対策をして、お客様のご供養の気持ちに寄り添っていきたくと考えています。しっかり目配り心配りを行い、どんな状況下においても故人の方、ご遺族の方に満足していただける葬儀を目指してまいります。